様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

# 科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　３ 年　４ 月 ２９ 日現在

機関番号：１２６０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2020
課題番号：１８Ｋ００４７６

研究課題名（和文）現代フランス文学における〈歩行〉の批評性と創造性

研究課題名（英文）Criticism and creativity of "walking" in contemporary French literature

研究代表者
塩塚　秀一郎（Shiotsuka, Shuichiro）

東京大学・大学院人文社会系研究科（文学部）・准教授

研究者番号：７０３３３５８１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,100,000円

研究成果の概要（和文）：歩行の批評性と創造性の源泉は経路の自由にあると考えられる。まず、散歩や遊歩の自由を裏面から照らし出すため、経路があらかじめ定められた移動に焦点を絞って考察した。その結果、身体の移動を制限する〈実存的制約〉によって主体が出会っているのは〈未知なるもの〉であり、それこそが主体の世界理解や行動の決心において大きな役割を果たしていることが明らかとなった。また、グラックの都市論を「空き地」や「モニュメント」との関連において分析し、この作家における都市の歩行が時間の堆積から逃れ自由を求める営みであることを具体的に示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究の結果、身体の移動を制限する〈実存的制約〉によって主体は逆説的に世界への理解を深めていることや、都市の遊歩における自由は空き地の存在がもたらす時間の堆積からの逃避に由来していることが明らかになった。本研究においては、効率重視の価値観のもとスピードアップするばかりの現代社会において、緩慢さや逸脱のもつ意味について再考することを試みた。「歩行」は、環境による制約を受けつつも主体による選択の自由を確保した営みであり、また、外界との身体的交感の機会でもあるという意味で、効率と速度に支配された現代社会の価値観を問い直す際に、多様で豊かな視点を提供しうるものである。

研究成果の概要（英文）：Criticism and creativity of walking come from the freedom of the course. First, in order to illuminate the freedom of walking from the back side, we focused on the movement with a predetermined route. As a result, we found that it is the "unknown" that the subject encounters due to the "existential constraint" that restricts the movement of the body, and that it plays a major role in understanding the world of the subject. And we also analyzed Gracq's essay on a city in relation to "vacant lots" and "monuments," and clarified that walking in the city in this writer is an activity that seeks freedom to escape from the accumulation of time.

研究分野：フランス文学

キーワード：歩行　都市　制約　自由

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景
ボードレールやシュルレアリストたちの実践にみられるように、都市の歩行は単なる個人の気晴らしなどではなく、同時代に対する批判をはらんでいたり、新たな美学の実践と結びついていたりする。また、二十世紀後半に展開された歩行をめぐる理論は、歩行者が見えない制約下に置かれつつも、その制約や規則のもとで創造行為をなしていると見なしている。本研究では、歩行のもつ二つの可能性、すなわち、批評性と創造性が二十世紀後半以降のフランス文学においていかに機能し、どのような現代的問題をえぐり出しているかを探ろうと考えた。

２．研究の目的
現代の都市において歩行者は想定されたルートを「歩かされて」いる。作者や歩行者がどのような事態を歩行における制約ととらえ(=批評性)、そこからどのように逸脱しようとし(=創造性)、その結果何を見出したのか(=批評+創造)、に注意しつつ、次項の基準によって限定されたテクスト群を読み解いていく。

３．研究の方法
「遊歩をめぐる文学」という括り方では対象が十分に限定されず場当たり的な研究に終始してしまう恐れがある。そこで、本研究では対象を合理的に限定することに気を配った。時代区分については、ボードレール以来の系譜に十分に目配りしつつも二十世紀後半を対象とする。都市開発やモータリゼーションによる街路環境の変化など、現在に通じる状況がこの時期に出現しているためである。具体的には次のようなテクストを分析の対象とした。ミシェル・ビュトール『心変わり』、ジュリアン・グラック『狭い水路』（これら二作品は経路があらかじめ限定された移動を描いたものとして、歩行との対照項として選ばれた）、ジュリアン・グラック『ひとつの町のかたち』など。

４．研究成果
（１）歩行が批評性や創造性を生み出しうるのは、何にも縛られず自由に行き先を定めうるためだと考えうる。散歩や遊歩のもつ自由を裏面から評価することを目指し、まず最初に、経路が定められた移動に焦点を絞って考察した。ジュリアン・グラックの紀行文『狭い水路』は、ボートでエヴル川をたどる旅を記した書物である。舟旅においては、自ら主体的に動く自由が奪われているために、つまり、徹底的な受け身の状態を強いられるがために、外界からの呼びかけに敏感にならざるをえない。歩行においても自由気ままな遊歩よりも制約を課された課外遠足などにおいてこそ都市の新たな面がかいま見られることを、グラックは『ひとつの町のかたち』において記している。

（２）グラック『狭い水路』に続いて、ミシェル・ビュトール『心変わり』に描かれた鉄道旅行を歩行との対比において考察した。この作品は主人公が列車で定められた鉄路を進み翻意するまでを描くフィクションであり、回想や予想を通じての〈経路の反復〉やそれによってもたらされる微妙な差異によって主体の認識が深まっていく様子が示されている。ただし、グラックの場合とは異なり、認識が深められていくのは外界ではなく主体の内面である。小説の詳細な読解の過程で、鉄路による制約の機能が、テクスト上でのウリポ美学と類比的な関係にあることが判明した。というのも、本小説の旅行者において、心の奥底で無意識のうちに主体を規定しているものが、路線という明示的な制約によって暴き出されているからである。ウリポの創設者クノーによれば、インスピレーションに頼ることは、あらゆる衝動に盲目的に従うことを意味し、実際には隷属状態に過ぎない。この認識から、いくつかの知悉した規則に従う創作をむしろより自由なものとみなす、ウリポ美学の淵源が導かれたのである。グラックにおいてもビュトールにおいても、身体の移動を制限する〈実存的制約〉によって主体が出会っているのは、彼らが望んでいなかったもの、期待していなかったもの、つまりは〈未知なるもの〉であるが、それこそが、主体の世界理解や行動の決心において大きな役割を果たしていることが明らかとなった。

（３）続いて、都市における歩行の自由について考察するため、グラックの都市論『ひとつの町のかたち』における歩行を、「空き地」や「モニュメント」との関連において分析した。文学者による町歩きの書を読むと、多くの場合、町の歴史が刻まれた歴史的建造物は称揚の対象となっている。ところが、グラックはそうした歴史的建造物にきわめて冷淡な態度を示している。その理由としては、グラックに特有に時間感覚があるようだ。彼は都市を単線的かつ一方向的時間のもとに置こうとするのではなく、過去と未来が対話を交わしつつともに変化しうると考えている。こうした時間感覚ゆえに、町の精華たる歴史的建造物は、単に人びとの生活から切り離された壊死部位とみなされるのみならず、現在とも未来とも没交渉のまま凝固した過去の堆積物として忌避されるのである。また、都市が生体であるとするなら、町並みの一部が取り壊されることで生じる空き地は〈傷〉に他ならず、その出現は歓迎されるべき現象ではないはずだ。にもか

かわらず、グラックが都会の真ん中に出現する空き地を称揚するのは、それが煩わしい過去の堆積から解放してくれる場所であるからに他ならない。過去に感じた「予感」や未遂のままの希望は、「自由」の空間たる空き地でこそ、「新芽」として吹き出すことになるだろう。このように、グラックにおける都市の歩行は、時間の堆積から逃れ自由を求める営みなのである。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計7件（うち査読付論文　7件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　2件）

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>Shuichiro SHIOTSUKA | ４．巻<br>電子ジャーナル |
| ２．論文標題<br>Le parcours litteraire de Perec comme "modele structurel" du parcours artistique de quelques peintres dans La Vie mode d'emploi | ５．発行年<br>2019年 |
| ３．雑誌名<br>Le Cabinet d’amateur. Revue d’etudes perecquiennes (revue en ligne) [URL : http://associationgeorgesperec.fr/le-cabinet-d-amateur/] | ６．最初と最後の頁<br>- |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>Shuichiro SHIOTSUKA | ４．巻<br>19 |
| ２．論文標題<br>Le pouvoir d'evocation du lipogramme dans La Disparition : La signification de la contrainte et son evolution | ５．発行年<br>2019年 |
| ３．雑誌名<br>Cahiers Georges Perec | ６．最初と最後の頁<br>57-62 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>塩塚秀一郎 | ４．巻<br>22 |
| ２．論文標題<br>流れからの〈逸脱〉が意味するもの：ジュリアン・グラック『狭い水路』における風景の呼びかけ | ５．発行年<br>2019年 |
| ３．雑誌名<br>文学と環境 | ６．最初と最後の頁<br>5-13 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>Shuichiro SHIOTSUKA | ４．巻<br>14 |
| ２．論文標題<br>Bioy Casares, source de l'imaginaire lipogrammatique | ５．発行年<br>2021年 |
| ３．雑誌名<br>Cahiers Georges Perec | ６．最初と最後の頁<br>313-322 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>Shuichiro SHIOTSUKA | 4．巻<br>54 |
| 2．論文標題<br>Le cinema comme sagesse du peuple : le melange du reel et de l'imaginaire dans Loin de Rueil de Queneau | 5．発行年<br>2020年 |
| 3．雑誌名<br>仏語仏文学研究（東京大学） | 6．最初と最後の頁<br>95-106 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>Shuichiro SHIOTSUKA | 4．巻<br>26 |
| 2．論文標題<br>La potentialite des voyages contraints : Bon, Gracq, Butor | 5．発行年<br>2021年 |
| 3．雑誌名<br>Contemporary French and Francophone Studies | 6．最初と最後の頁<br>刊行予定 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>塩塚秀一郎 | 4．巻<br>24 |
| 2．論文標題<br>ジュリアン・グラック『ひとつの町のかたち』における変化の肯定—モニュメントと空き地をめぐって | 5．発行年<br>2021年 |
| 3．雑誌名<br>塩塚秀一郎 | 6．最初と最後の頁<br>30-38 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

〔学会発表〕　計3件（うち招待講演　0件／うち国際学会　3件）

| |
|---|
| 1．発表者名<br>Shuichiro Shiotsuka |
| 2．発表標題<br>Les methodes mathematiques et la marge pour la verve artistique dans La Vie mode d'emploi de Georges Perec |
| 3．学会等名<br>Colloque de l'APFUCC "X prend Y pour Z : litterature, contrainte et mathematiques"（国際学会） |
| 4．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Shuichiro Shiotsuka |
| ２．発表標題<br>La potentialite d'autres "contraintes existentielles" anterieures ou exerieures a l'Oulipo : Les eaux etroites (1976) de Julien Gracq et La Modification (1957) de Michel Butor |
| ３．学会等名<br>Colloque international "Les effets de l'Oulipo"（国際学会） |
| ４．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Shuichiro Shiotsuka |
| ２．発表標題<br>Le cinema comme sagesse du peuple : le melange du reel et de l'imaginaire dans Loin de Rueil de Queneau |
| ３．学会等名<br>Le Cinema des poetes（国際学会） |
| ４．発表年<br>2018年 |

〔図書〕　計1件

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>ジョルジュ・ペレック、塩塚秀一郎訳 | ４．発行年<br>2018年 |
| ２．出版社<br>水声社 | ５．総ページ数<br>148 |
| ３．書名<br>パリの片隅を実況中継する試み：ありふれた物事をめぐる人類学 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

| | 氏名<br>（ローマ字氏名）<br>（研究者番号） | 所属研究機関・部局・職<br>（機関番号） | 備考 |
|---|---|---|---|

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---|---|